



バンコク便り



1. はじめに

タイは観光促進策の一環として、2023年9月25日～2024年2月29日までの期間限定で、中国とカザフスタンからの観光客へのビザを免除しています。ビザ免除期間中には、中秋節と国慶節の8連休（9月29日～10月6日）と春節（旧正月の2月）の2つの連休があることから、訪タイする中国人の増加に大きな期待を寄せており、空港で行われた中国人観光客を歓迎するイベントにはセター新首相も出席しています。タイでは間もなく観光のベストシーズンである乾季を迎え、観光客が増えることで街中の活気が増しそうです。

2. 現地ビジネス情報（タイの建設業界）

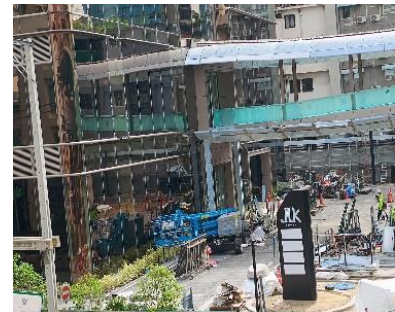
タイ経済においては、コロナ禍の影響が一段落した事を示すように、ここ数か月で都心での大型開発が相次いで再開しております。コロナ禍前より交通インフラやコンドミニアムは建設ラッシュとなっていました。建設業の年平均成長率を示すCAGRは、2021年の2.7%、2022年の2.6%から、2023年～2026年には3.9%になると予想されており、そのほとんどの案件にはタイのゼネコン企業が関係しています。

タイのゼネコン業界は基本的に日本と同じ構造となっており、ゼネコン企業が大型プロジェクトを受注し、実際の工事は、複数の協力会社によって組成、複合的に建設されています。バンコク都内にある多くの駅前でも工事が行われていますが、コンドミニアムや店舗工事などにおいては、隣国のカンボジアやミャンマーから出稼ぎに来ていると思われる作業員が多く見受けられます。

インフラ事業においても、ゼネコン企業は重要な役割を担っていますが、複数の協力会社によって進められていることから、必然的に重層化の度合いが高くなっています。その結果、請負業者の管理不行き届きなどによる建設プロジェクトの遅延や、低賃金など劣悪な労働条件に起因する仕事の質の低下が生じており、労働条件改善や公正・透明な受発注契約などに向けた取り組みが必要とされています。さらに、建設現場での労働力不足が深刻な問題となっており、デジタル技術の活用による業務改善も急務となっています。

注目のインフラ事業

事業概要	総工費
空港接続の高速鉄道建設	2,200億バーツ(約8,800億円)
バンコク～ラヨン間的高速鉄道事業	1,000億バーツ(約4,000億円)
BTS、MRTの延伸・新設プロジェクト	不明/最低でも2026年までの計画あり



バンコク中心部の建築現場

3. 現地トピックス（ものづくり商談会パタヤ会場の開催！）

9月6日～8日までNC Network Groupが主催する「FBC アセアン 2023 ものづくり商談会パタヤ会場」が開催されました。東部経済回廊（EEC）の中心に位置するパタヤで開催される、唯一の製造業向け大型展示商談会であり、チョンブリ・ラヨン地域で勤務するタイ人スタッフの方が多数来場することが特徴です。

タイローカル企業や、タイ投資委員会（BOI）経由で出展・来場した大手バイヤー企業とのマッチングが行われ、ドイツ系自動車メーカーと商談を行った企業からは「来年からのEV車のタイ国内での製造に向けて、積極的にサプライヤーを探していることが分かった。会期後に具体的な提案に繋がらそう」との声がありました。

バンコク会場に比べると出展者数は少ないですが、来場者は昨年より増加しており、EECという注目地域で、タイローカル企業や外資系企業との接点を持つことができる貴重な商談会となっています。

来場募集の方法や会場レイアウト変更などの改善に取り組む予定です。



会場内の様子